

## 私のイタリア紀行（番外）

長谷川 修

ソフィア・ローレンという女優をご存じだろうか。

ミロのヴィーナスにも例えられる体格の良い美人女優で、大きいお腹に妊婦服でちよつと手を挙げ微笑みかけるスチール写真は、六〇年前、大学生の私には衝撃だった。舞台はナポリの下町、不法なヤミ煙草売りで生計を立てている彼女は、妊娠中と出産後半年は刑務所に入らないで済むと聞いて、次々と七人の子供を産み働く。一方マルチエロ・マストロヤンニ扮する失業中の亭主は、子作りに疲れやせ衰えるというコメディである。

これはオムニバス映画『昨日・今日・明日』のナポリ編である。ちなみにミラノ編はセレブな実業家夫人と若い小説家の浮気ドライブ、ローマ編は高級娼婦と帰省中の神学生とのチグハグな出会い、となっている。三都物語それぞれに面白いが、中でもナポリ編が一番印象に残った。子供たちが元気に遊び回る中で、S・ローレンの肝っ玉かあさんは逞しく生きている。洗濯物はためく下町で路上商売仲間の女たちは、互いに助け合い警察官や税務署員の追求をかわす。

三編ともにS・ローレンが三様の自立した女性の魅力を見せ、M・マストロヤンニがダメ男役で彼女を引き立てる。(ヴィットリオ・デ・シーカ監督は二人を主演に、その後コメディ『あゝ結婚』、ウクライナを舞台にシリアスドラマ『ひまわり』を制作した。)

S・ローレンは、母の実家があるナポリ隣接の漁村ポッツォーリで育った。家庭は貧しく、一六歳頃肉体派女優として映画デビュー。二三歳で後に伴侶となる映画製作者と知合い、演技力を磨き国際スターの道を歩む。現在はナポリ市の名誉市民であり、「イタリア人よりもナポリ人と呼ばれたい」と語り、SSCナポリの熱烈サポーターでもある。

六〇年前のナポリ下町は大勢の子供で活力が溢れていたが、現在のイタリアは少子・高齢化が進展中で国家的課題となっている。原因は日本と同じく未婚化、晩婚化であり、背景には景気の長期停滞もあって対策は容易ではない。